

圖按法概要

比奈地畔川

第四 圖按の種類と範囲

廣い意味の圖按の應用せらるゝ範囲は實に廣大無限であつて、恐らくそれを分類したならば、この關係せらるゝものゝあまりに複雜なるに驚かるゝであらう。大は建築の如き宏壯なるものより、小は些細な携帶品の如きに至るまで、多少の圖按的意匠の應用せられて居ぬものはない。

けれども、今單に圖按と一口に云はるゝものは、重に美術工藝品に關する圖按であつて、以下説く處のものも皆それ等に付てゝある。

次に、圖按といふことを直ちに摸様と解して居る人があるけれども、摸様と圖按とは少しく意味が違ふ、即ち圖按は、一器物の形狀樣式、それ等に配する摸様及彩色迄も含有せられしものである、單に摸様と云はれた場合は、圖按の一部とみて差支ない。

圖按の主要とする所は摸様であつて、實に摸様は裝飾中の大部分を占めて居ると云ふてよい、工藝圖按を作の上に於て、最も思考を要するのは摸様である、摸様のことは追て其項に説明することゝする。

圖按の應用せらるゝ範囲は上述の如く廣大であるけれども、是を用途上の上から大別すると

一、實用的圖按

二、裝飾的圖按

三、實用と裝飾とを兼ねたる圖按

の三分類とすることが出来る。

實用的圖按とは、實用に重きを置く圖按にして、質實便利を旨とし、隨て多くの意匠裝飾を施す必要のなきもの即日常の飲食器具調度の如きものである。

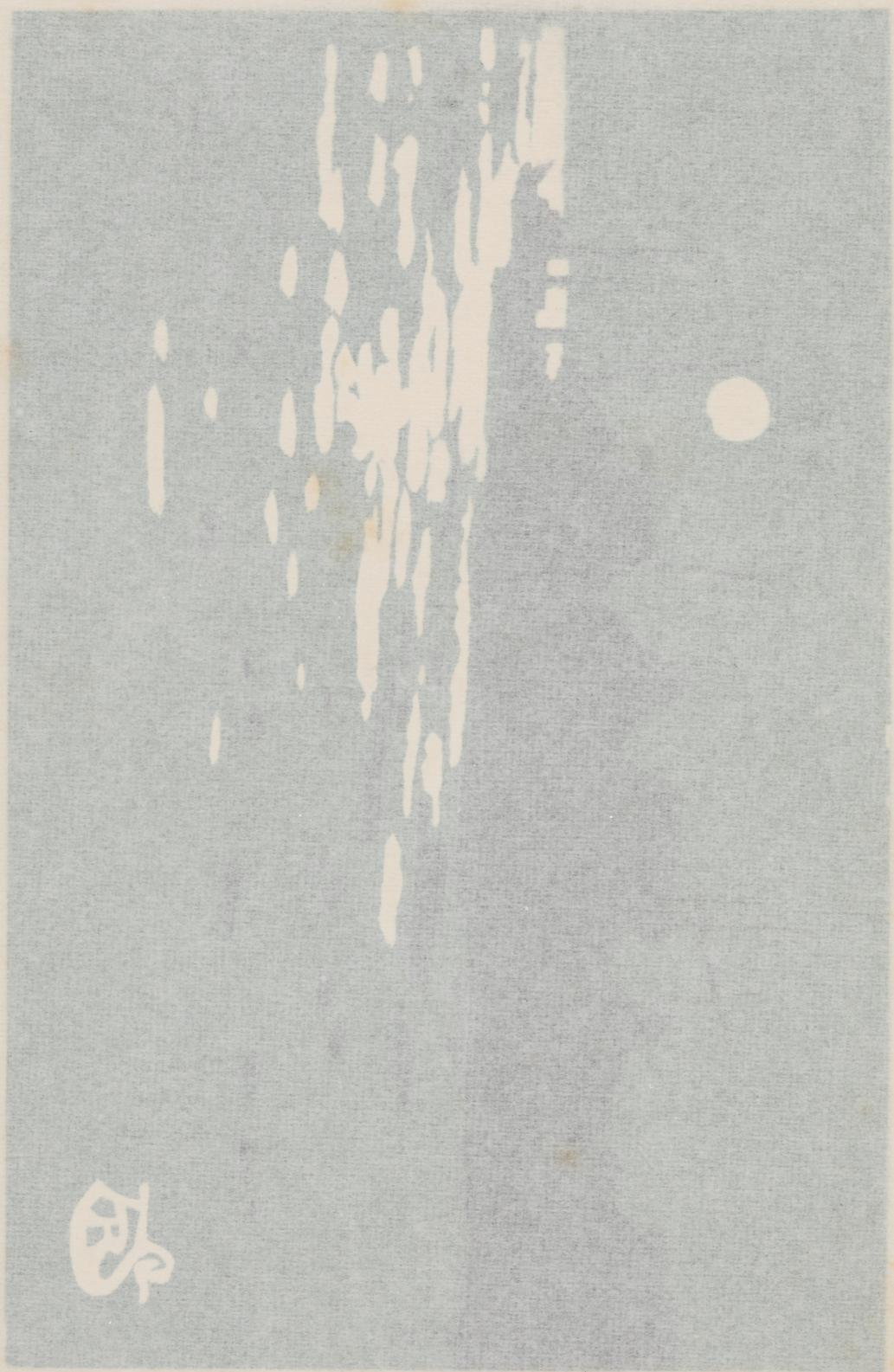


圖 按 法 概 要

比奈地畔川

第四 圖按の種類と範囲

廣い意味の圖按の應用せらるゝ範囲は實に廣大無限であつて、恐らくそれを分類したならば、この關係せらるゝものゝあまりに複雑なるに驚かるゝであらう。大は建築の如き宏壯なるものより、小は些細な携帶品の如きに至るまで、多少の圖按的意匠の應用せられて居ぬものはない。

けれども、今單に圖按と一口に云はるゝものは、重に美術工藝品に關する圖按であつて、以下説く處のものも皆それ等に付てゝある。

次に、圖按といふことを直ちに摸様と解して居る人があるけれども、摸様と圖按とは少しく意味が違ふ、即ち圖按は、一器物の形狀様式、それ等に配する摸様及彩色迄も含有せられしものである。單に摸様と云はれた場合は、圖按の一端とみて差支ない。

圖按の主要とする所は摸様であつて、實に摸様は裝飾中の大部分を占めて居ると云ふてよい。正圖按を作の上に於て、最も思考を要するのは摸様である。摸様のことは追て其項に説明することとする。

圖按の應用せらるゝ範囲は上述の如く廣大であるけれども、是を用途上の上から大別すると

一、實用的圖按

二、裝飾的圖按

三、實用と裝飾とを兼ねたる圖按

の三分類とすることが出来る。

實用的圖按とは、實用に重きを置く圖按にして、質實便利を旨とし、隨て多くの意匠裝飾を施す必要のなきもの即日常の飲食器具調度の如きものである。



國

裝飾的圖按とは、以上と相對するものであつて、専ら意匠模様のそれ等に注意を拂いたるものであつて、床飾の花瓶、書棚、置物などその類である。

實用と裝飾とを兼ねたるものは、云ふ迄もなく上記兩者の兼れ應用せられたるものであつて、室内電燈窓掛等多くの種類がある。近者生活狀態の複雜は、夥だしく此種の工藝品を増加したのである、按者はよろしく其用途に鑒みて按を起てなくてはならない。

亦、圖按が適用せらるゝものゝ材質は亦多方面に亘りて、自然的のもの、人工的のものゝ多種類より得來るが之を大別するときは

一、金屬類

二、土石類

三、木竹類

四、牙角類

五、甲貝類

六、絹綿類

七、毛羽類

八、漆膠類

九、紙類

なとである、尙之を細別するときは非常の種類となるであらう。

次に、圖按を必要とするところの各種工藝品の種類から、最も關係深きものを分類するときは

一、絲製品類

二、窯業品類

三、塗料品類

四、金屬品類

五、彫刻品類

六、印刷品類

等であつて、以上を各種目に付て分類する時は

一、染織物刺繡編物等

二、磁陶器土石七寶玻璃等

三、鬆漆器蒔繪ゴム製品ラツク塗物等

四、彫鑄金鍛金板金細工物等

五、粘土木竹彫牙角甲貝石彫等

六、石木銅亞鉛白亞板等

などで、如何に一目しても圖按の多方面に應用せらるゝかを知ることが出來やう。

今試に圖按の研究として、種類を併記すれば

建築圖按

裝飾品圖按

染織品圖按

陶器漆器品圖按

木工品圖按

金屬品圖按

等であるが、尙ほ細別することが出来る。

(禁轉載)

水彩畫の紙〔その三〕

ワットマンは、濕氣のためにドーサが抜け、繪具を着けると班點を生ずることがある、それ故紙には年號が滲き込んである。今年出來た紙でも保存が悪いと使用に耐えぬ、ズリキか紙の筒へ入れて濕氣のない處へ置くとよい、階下よりは二階がよい、火鉢などのある上の天井へ吊して置くのもよい、筒の中へ石灰を紙に包んで入れて置てもよい、時々天氣のよい時出して日光に晒すとよい、保存さへよくば三年や四年は大丈夫である。

ワットマンのドーサの抜けたのを通常風を引くといふ。

O W、は風を引かぬといふがアテにならぬ、ワットマンよりは保存期が永いがやはり風を引く。

紙は凡て斤量で賣買するものであるが、ロンドンあたりでワットマンを買ふと日本のより小さい、書學紙同形でそして紙が厚い。日本に來てゐるのは圖引用だといふた人がある。

スケツチングプロツクといふて、紙を幾枚も重ねて四邊を糊で貼つてあるものがある、これにはワットマンも書學紙もあつて、旅行用、スケツチ用に一寸便利であるが、水貼でない爲めに書くとき紙が脹れて困る。